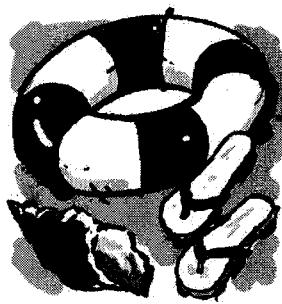


8/8(土) まど！ 倫々号です。なるほど『葉』は枝折から転いへ、言葉とか
案内や手引きを意味するとか、納得あります。

案内手引き

八月のテーマ

万人幸福の葉



え・城谷俊也

大決断の抛り所

経

當者は日々多くの決断を迫られます。その積み重ねが事業の成果につながっていきます。

経営上の決断は、数値や事実の蒐集にはじまり、それらの整理、解釈、さらに自他の経験知を加味して行なわれるものでしよう。

ただし、いくらデータを蒐集し、優秀な頭脳団体を抱え、経験豊かな識者を総動員して判断材料を揃えても、最終的な断を下すのはトップをおいて他にありません。そこの際に問われることは、右にするか左にするかの根本的な価値基準、判断基準を当の経営者が持つているかどうかということです。

倫理法人会では、その抛り所、決断の指針として、純粹倫理に基づいた物の見方、考え方を提供しています。この生活法則をまとめた書物こそ『万人幸福の葉』（以下『葉』）に他なりません。

ある社長は、『葉』の六条にある「子は親の心を演ずる名優である」という箇所を読んでハッとしたしました。子を社員、親を社長と置き換えて見たからです。社員ばかり

りを責めていた態度を改め、自身の生活や言動を改善したところはからずも社員との関係が円滑になつたのです。

この事例で重要なのは「ハツ」として純粹倫理の内容を受け取つても、自らを行動へと突き動かすような閃きが去来するか否かは、

その人の感性によらざるを得ません。実は、純粹倫理の学びで最も重視するのは、この感覚なのです。

ただし、こうした直観も、まずは知的な情報として獲得されなければ、閃きようがありません。講話などで知識として蓄積された純粹倫理の情報は、実践を通して生きる知恵と化し、より精度の高い気づきをもたらすことでしょう。

この小冊子を経営上の指針とするには、まず親しむことです。いつも持ち歩き、折に触れて繰くりとを習慣化してみましょう。

または、毎日気に入った箇所を音読することもできます。不思議とその時の自分自身に必要なびつたりのフレーズに気づく（出合う）瞬間があります。それをそのまま実行に移してみるのです。

『葉』を自律的に活用する時、物言わぬ文字が語りかけ、大決断の抛り所となってくれるでしょう。

ことを述べたといいます。読者が先入観を捨て、現状に照らし合わせて、自らの実践と結びつけた読み方をする時、そこに込められた「叡智の扉」は開きます。求めの開閉度合いは変わるので、

「葉」という語は、一説による「枝折」から転じた言葉だといいます。迷いや山道などで木の枝を折ったり、細く削つたりして、後続の人や帰路の道標といたします。